

何を目指すのか：

幸福(Happiness)、希望(Hope)、 Well-being

- ▶ 幸福な社会を目指すのか、希望がある社会を目指すのか
 - ▶ 日本の子どもは夢を語らない
 - ▶ 「幸せな人は、今の状態が続けばいいと思っている」「今の若者は、今の状態が続けばいいなというあり得ないことを思って幸福だが、希望はない」
 - ▶ まわりも皆悪くなれば、そこそこ「満足」「幸福」と感じる⇒「幸福度」を追い詰めると、逆にどんな社会でもあり、となる
 - ▶ ニーズの潜在化、引っ込めてしまう傾向というのが人間にはある



- ▶ 希望は、楽天的であり現実的な観測ではない時にも使われる言葉⇒本当に希望を求めている社会は、大変な社会⇒希望を**求めている(探している)**社会と希望が**ある**社会は違う？

▶ 「幸福」でも「希望」でもない実質的なWell-being

- ▶ 子どもの貧困削減を目標とすべき
- ▶ 「幸福がどうのこうのという議論の前に、最低限の貧困層、一番弱い人が貧困状態にないというのが第一」



- ▶ 快楽と幸福は異なる。物質的な欲求にとらわれない幸福の定義もある
- ▶ 幸せの定義は何か



幸福・希望・Well-beingの達成に必要なモノ

▶ 絆

- ▶ Weak-ties と Strong-ties 。家族以外が支える仕組み(子どもの共同生活など)

▶ 教育

- ▶ すぐ結果がでる教育ではなく、長期的に影響してくる教育
- ▶ 教育を真剣に考える時期。英語教育等

▶ 時間： 日本の職場は孤独な長時間労働一労働の管理

▶ 政治

- ▶ 政治の決断力
- ▶ 参加型合意形成の仕組み

▶ 行政

- ▶ 提案だけでなく、それをどう社会に落とし込むかの戦略・戦術
-

